

# 岡崎の教育で 育てられた者として



都留文科大学  
教授 麻場 一徳 氏

## 教育随想

私は現在、大学をはじめとする様々な場所で陸上競技を指導することを主な仕事としています。授業として、学校体育の中でのその指導方法やトレーニング方法について教えることもあれば、いわゆるポランテニアとして、競技力向上を目指す若者たちにその厳しい側面を教えたり、小さな子供たちにその楽しさを味わってもらったり、健康づくりを目指す中高年の方々のお手伝いをしたりと本当に様々です。

私は、中学校に入学すると同時に陸上競技を始めました。私の人格形成は陸上競技によってなされてきたと言っても過言ではありません。今でも、物事を処理していく方法論は自分が競技力向上を目指して取り組んできた方法論であり、逆境にある



平成15年7月1日

# 7月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

- 教育随想 ..... 1  
都留文科大学 教授 麻場 一徳氏
- この人に聞く ..... 2  
知恵の輪作り名人 神谷 吾市氏
- 羅針盤 ..... 2  
技術・家庭科指導員 山本 満夫
- ふれあい ..... 3  
矢作南小 池田佳代子  
安城市立安城南中 天野 孝志
- 特集 ..... 4  
岡崎に残る和算の文化  
算額が伝える江戸・明治の数学
- お知らせ ..... 6
- フォト・ヒストリー ..... 8  
「こまどり」号発車(昭和35年)
- この本を ..... 8

ときには、苦しいトレーニングをやり遂げてきた経験や自信を糧に乗り越えてこれたと思っています。

私の人生にとってこのように素晴らしい財産を与えてくださったのは、まさしく「岡崎の教育」だと今更ながら感謝しております。簡単には語り尽くせませんが、岡崎で育った小学生や中学生の時に先生方から教わった運動の楽しさ、おもしろさや陸上競技の基礎・基本が、現在このような人生を歩んでいる土台となっていることに間違いありません。

今日に至るまで、どの局面においても、私は指導者にだけは本当に恵まれてきました。とても幸せなことです。

たかが、「走る」「跳ぶ」「投げる」といった単純な動作によって遂行される運動ですが、それを形づくる心技体の奥深さ、そしてそれを支える文化的側面を、これからも、少しでも多くの人たちに伝えていくことができたらと思います。

(あさは かずのり)



# この人に聞く

ふるさとシリーズ

## 知恵の輪作り名人

神谷 吾市 氏



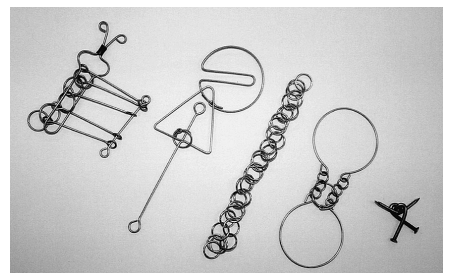
「六年生のころ、修学旅行で奈良へ行き、土産に竹でできた知恵の輪を買いました。子供心にそれが大変気に入りました、自分も作ってみようと思いだしたのが、知恵の輪作りの始まりです。」

知恵の輪作りの名人として、神谷さんは、岡崎市内をはじめ市外の小中学校にまで訪れ、知恵の輪の楽しさを広められている。その功績が認められ、子供たちと一緒に活動している様子がテレビで放映されたこともある。そして、  
「わたしは、知恵の輪をただ好きで作っているだけ。生徒さんの喜ぶ

顔を見たさに、気ままに作っているだけです。」と、付け加えられた。自然体で活動をされている神谷さんならではの言葉である。

また、学校へ訪問するようになったきっかけについて伺うと、

「昭和二十五年ごろ、先生をやっている友人が、スリランカに行くことになりました。その友人は、現地の子供たちを喜ばせたいが何か良い工夫はないかと相談にきたのです。そこでわたしは、友人に手作りの知恵の輪を持たせてやったのです。後日、現地の子供たちが大変喜んでくれたと友人が便りをくれました。それ以来、子供さんや親御さんまで喜んでくださる知恵の輪を作ることが楽しみにな



つてきました。」

と、語られた。子供たちの喜ぶ顔を大切にされている神谷さんらしいエピソードである。

次に、神谷さんは「これはわたしの宝物なんです」と、一通の手紙を見せてくださった。震災に遭った兵庫県西宮市北夙川小学校の子供たちからの寄せ書きである。知恵の輪の作り方を教えてもらったことへの感謝の気持ちが伝わってきた。 「震災に遭った子供たちが、わたしの知恵の輪によっていくらか笑顔を取り戻してくれたことをとてもうれしく思います」と、静かに話をされた。最後に、神谷さんに今の子供たちに望むことを伺った。

「今の子供さんの中には、テレビゲームのほうが目白押しと言って熱心に組み組んでくれない子もいます。粘り強く知恵の輪に取り組むことができ、解いた後の喜びを感じる子になってくれればと願っています。」  
神谷さんの笑顔は、子供のように輝いていた。

氏名 かみや ぐいち  
生年月日 昭和二年一月十五日  
住所 岡町東一色五



## のこぎり挽き習得への道

ある授業から

技術・家庭科指導員

山本 満夫

代表生徒が、先生のアドバイスで、顔の位置、のこぎりの引き込み角度を修正していく。それに合わせて、チェックポイントの顔・のこぎりに赤いシールが貼られていく。再び代表生徒がのこぎり挽きを始める。「音が変わった。」子供たちが思わずつぶやく。ギーコギーコギーコとリズムよく軽快な音になった。代表生徒も笑顔を見せる。A中のB先生ののこぎり挽きをマスターさせる授業で、クラス全員がのこぎりで正しく切るとはどういうことか目と耳で感じ取った一瞬であった。

子供たちへのものづくり事前アンケート結果によれば、道具が正しく使えるようになりたいと答える生徒は七〇パーセントに近い。今までの使用経験の少なさと正しい使い方を

## 体験をいかして

矢作南小 池田佳代子

「今まで、ごみのゆくえを追って勉強してきたから、分別もできるよね。今度、みんなにやってみてもらいます。」と話す、A子は

「もう、ばっちりだよ。」

と自信満々な表情を見せた。

空き缶・新聞紙・ペットボトル・生ごみなど、教師の家から出た一週間分のごみを見て、A子は目を丸くしていた。そのにおいや量に圧倒されて、どうしようと戸惑っていたのだ。そこで、

「この前、瓶や缶について調べたよね。まずそれからやってみたら。」と声をかけた。すると、はっとしたように

「そうだ先生、空き缶、水道で洗



と、教室を飛び出していった。いつもはグループの中で控えているように

るA子が、「次は、ペットボトルを洗うよ」「キャップを取るんだったよね」など、積極的に取り組み始めたのである。

体験後、「分別は簡単だと思っていたのに難しかった。お母さんたちは、こんなにいっぱい分別をして大変だね」と言ったA子。この体験を通じて、分別の苦勞を感じてくれたこと、生き生きした姿を見せてくれたことをうれしく思った。



## モグッチ君の大冒険

安城市立安城南中 天野 孝志

「今日はモグッチ君。」

モグッチ君とは、数学の正の数・負の数のかけ算の授業で登場させたモグラのキャラクター。

それ以来、生徒たちはモグッチ君の登場する授業を楽しみにするようになった。

そんなに楽しみにしているのならと思い、単元を丸ごと、「モグッチ



君の大冒険」と題して授業を行って見た。中学生だというのに、紙芝居を読んでもらって喜んでいる児童のように、毎日の展開を楽しんで授業を受けるようになった。

特に、数学が苦手だったA男がノートに一生懸命書くようになった。そして、授業日記に、

「次はモグッチ君がどうなるのだろうかと思うと、わくわくする。今の数学はとても分かる。これもモグッチ君のおかげだ」と書いてきたときはうれしかった。この生徒たちも中三になったが、今でも「モグッチ君は出てこないの」と時々言ってくる。

これからも、楽しく分かる授業で一人でも多くの生徒に充実感を味わわせていきたい。

教えられていないことが原因だ。もづくりの基礎・基本として道具を安全に正しく使うということは言うまでもない。ところが、実際の授業では、説明や話し合いが多く、生徒が活躍する時間が確保されていないことが多い。その点、B先生の授業には、短時間で、道具を正しく使えるようになる仕掛がたっぷりある。

まずは、一度全員にのこぎり挽きをさせる。それをもとに、生徒たちは、まっすぐ切れた、切れないなどの状態を発表する。しっかりと問題意識が芽生えた状態の後、前述の代表生徒の登場となった。

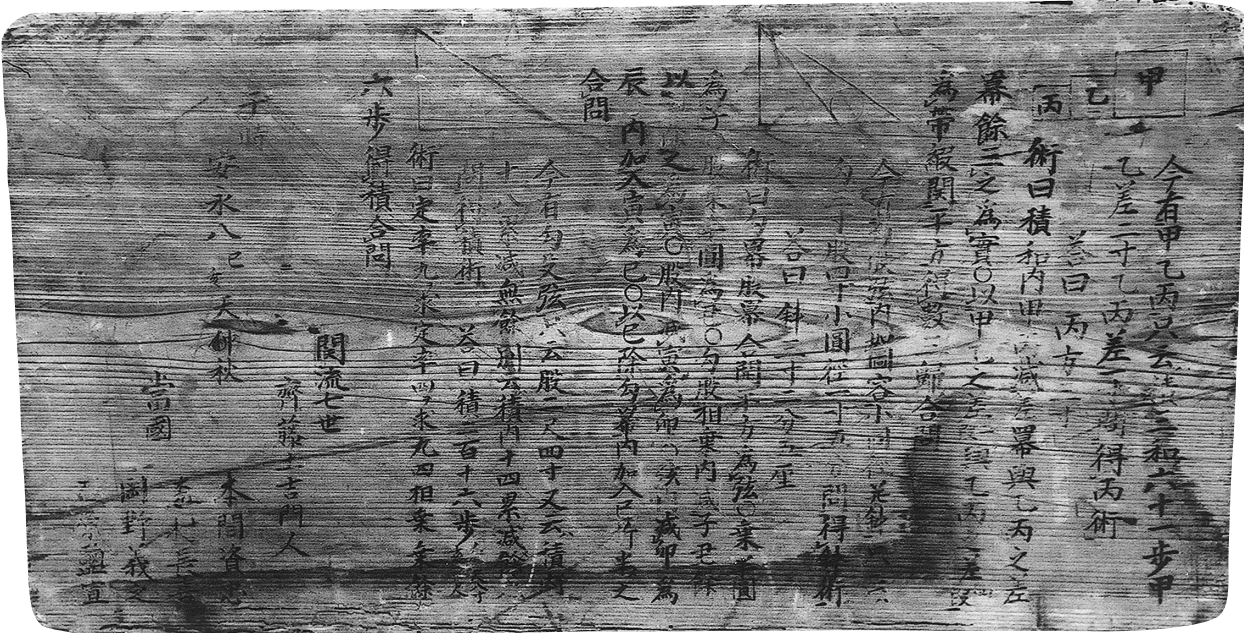
次に、一人一人がマスターする場面である。チェックポイントをペアで確認し合いながら、のこぎり挽きは続く。もちろん、正しく実施されていない場合は、シールが貼られる。のこぎり挽きをする生徒もチェックする生徒も真剣そのものである。四回なのこぎり挽きを繰り返すことで、生徒たちにも自信がついていった。最後に、のこぎりは、のこ身の厚さに違いがつけてあるために挽きやすくなっていることを、親指と人指し指の二本で柄を持って師範する。生徒の目が再び輝きを増した瞬間であった。



# 岡崎に残る和算の文化

## 算額が伝える江戸・明治の数学

◀ 六所神社の算額 (50 cm X 25 cm)



江戸時代初期に関孝和という数学者（和算家）がいたことはよく知られている。彼とその弟子たちの流派（関流）は、鎖国という閉鎖された社会の中で独自の数学（和算）を創り上げた。方程式の解法、円周率の公式化、微分・積分など、当時の西洋の業績を上回るほどの理論を展開していた。

江戸時代から明治初期にかけて、和算家たちは盛んに各地を遊説し、農民や商人などの多くの門人を育てた。そして、競って算額を神社や仏閣に奉納した。算額とは、和算の問題とその答え、計算方法を書いた額のことである。算額奉納の風習は世界に例を見ず、日本独自の文化である。

算額は、全国に約八八〇面現存している。市内では明大寺町の六所神社（安永八年奉納）と岩中町の岩谷観音（明治四年奉納）の二か所に納められている。いずれの算額にも関流の和算家の名前が残されている。

特に、岩谷観音の算額には奉納した中根虎之輔のほか近在の者や関東、信州の人々など五十人の名前があった。和算を究めるために、和算家たちが盛んに交流していたことがうかがえる。

岩津天神にも昭和五十八年に奉納された算額がある。これは、現代の数学の用語が使った新しいタイプの算額である。

算額の問題は、中学校の数学で解くことができるものもある。岡崎でも和算を取り入れた数学の授業実践が平成四年に行われている。また、他県ではあるが、数学で学習した内容を算額にして掲げようとしている学校もある。数学を慈しみ楽しんで研究していた和算家たちによる文化を、色あせさせることなく大切にしていきたい。

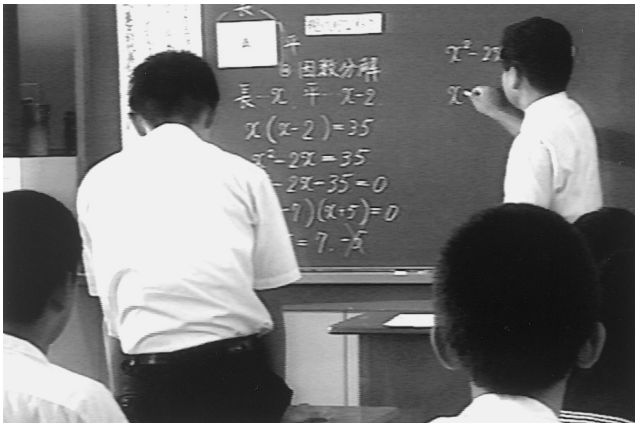


▲ 岡崎市大井野町の個人宅で見つかった算術書



▲ 算額が掲げられていた、六所神社の楼門





▲ 和算を題材にした数学の授業

### 算額奉納の理由

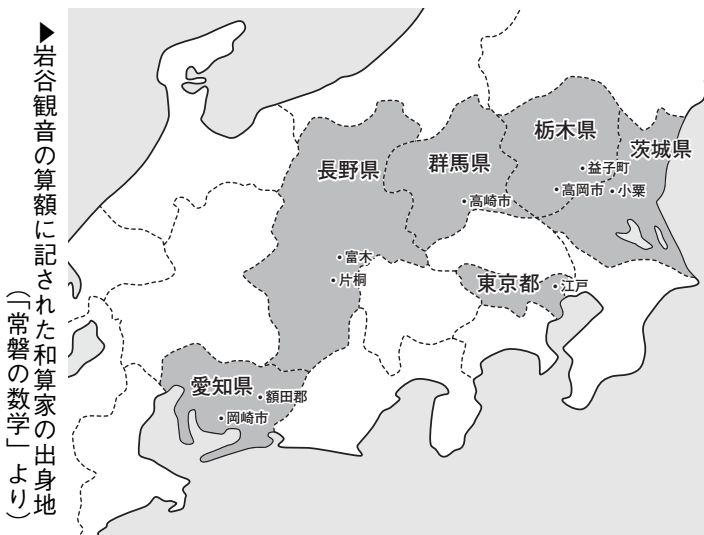
- ・自分で会心の問題を作ったり、難題が解けたりしたときの喜びを、神・仏に感謝する気持ちを表す。
- ・人の多く集まる場所に算額を掲げて、自分の研究成果を人に知らせる掲示板として、研究発表の役目を果たす。
- ・自分の学力を誇示して流派の勢力を示す。
- ・記念として掲げる。例えば、一冊の本を勉強して修了したらその中から問題を取り出して算額にする。あるいは、習った先生の米寿を祝福して門人が算額にしたり、先生の没年に算額を掲げたりする。

### 岩谷観音の算額レプリカ

今、外円に内接する三角形と天地人の三つの円を図のように入れる。ただし、三角形の中辺と短辺の長さの和は二十一寸。また、中辺と短辺をかけると百八である。さらに、天円と人円の直径の差が三寸である。このとき、天地人の三円の直径と三角形の長辺、中辺、短辺の三辺の長さはそれぞれいくらか。

▲問題文の現代語訳

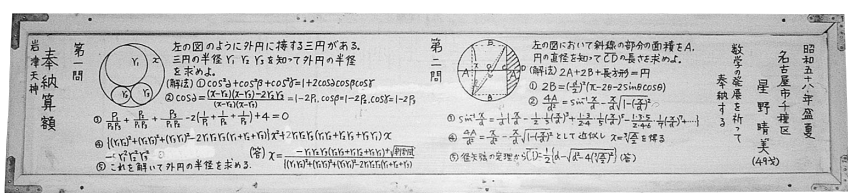
出典 <http://www.sun-inet.or.jp/itoken/sangaku/sangaku.htm>



▲ 算額に興味を持ち、岩谷観音の算額を奉納した中根虎之輔の墓碑を調べる中学生

#### 参考文献

- ・『常磐の数学』高須亮平
- ・『新編岡崎市史 資料民俗』岡崎市
- ・『日本の数学と算額』深川英俊
- ・『愛知県算額集』深川英俊
- ・『和算の館』<http://www.wasan.jp>



▲ 岩谷観音の算額



●教育最新情報

○教育文化館の開館

旧岡崎税務署で改修工事を進めていた教育文化館が完成し、来る七月八日に開館する。

教育文化館は、鉄筋コンクリート造り三階建て、延べ床面積は二四一・一六・九五平方メートル。中核市移行に伴い、県から教員研修が移譲され、従来の教育研究所だけでは不足する研修室、会議室等を拡張設置したものである。併せて、市民要望の高かった市美術館の第五展示室として利用する「殿橋ギャラリー」や「太陽の城サークルルーム」からなる複合施設である。

■教育研究所

① 研修室・会議室・資料閲覧コーナー 県から移譲さ



れる初任者研修、五年目・

十年目経験者研修等を行う。

研修室・会議室の定員			
201	20名	301	12名
202	28名	302	24名
203	28名	303	12名
204	16名	304	12名
205	72名	305	12名
会議室1	8名	会議室3	8名
会議室2	10名		

右表のように、研修室が十室、会議室が三室あり、各種の会合や打ち合わせ等で行うことができる。 ☎23・0416

② そよかぜ相談室 新入学児を中心に小・中学校への就学について、不安や悩みを抱えている保護者を対象に相談活動を行う。また、在学児童生徒の教育相談にも応えることができる。

③ カウンセリングルーム

不登校について、保護者・児童生徒を対象に臨床心理士による相談活動を行う。

☎23・0280  
☎23・0250

■殿橋ギャラリー

絵画、書、写真などの美術作品が展示され、多くの市民が気軽に鑑賞できるギャラリーとして活用される。

☎51・4280

■太陽の城サークルルーム

よりよい子育てができるよう、情報交換や友達づくりのサークル活動の場として活用



▲教育文化館

●少年自然の家だより

○「すぶちネーチャークラブ」の発足

昨年度、学校週五日制に対応してスタートした本所主催事業の「すぶちネーチャークラブ」は二年目を迎えた。本年度は、市内の小学校十七校、中学校三校の男女合わせて六十六名が会員となった。

四季折々の自然を通して、所内の自然をよく知ってもらう、自然に親しんでもらうことを目的としている。様々な野外体験活動を楽しみながら、本年度は会員相互の親睦を図ることもねらいとして、年八回の活動を予定している。

五月十七日(土)に、愛知植物研究会事務局長の安達史幸先生を講師にお迎えし、十五家族五十三人が、新緑におおわれた所内を歩き、樹木や植物に親しんだ。昼食には、所内で採れた「ゆきのした」や「わらび」と、講師さんに持参いただいた「こしあぶら」や「たら」という普段は口にするのではない山菜を天ぷらにして味わった。最後には、創作棟で各自が採集した草花を使用したしおりを作り、この日の記念の土産とし、春を満喫した一日となった。



▲筏作り (すぶちネーチャークラブ)

を浴びた子供たちの歓声が乙川にこだますることだろう。



●表彰



▲H14 夢が語り合える学校づくり推進事業  
—ふれあいゾーン「夢広場」— (北中)

- ◆FBCコンクール県春花壇
- 愛知県優良賞 根石小学校
- 西三河奨励賞 岡崎小学校
- ◆平成十五年度「自然・人・未来」へ  
発信する学校づくり推進事業(県)
- 常磐東小学校 (子ども獅子舞を中心に)
- 恵田小学校 (友と語り「わたしの未来」)
- 甲山中学校 (学風土記「わたる甲山」)
- 城北中学校 (情報通信ネットワークの構築)
- ◆平成十五年度特色ある学校  
づくり推進事業(市)
- 岩津小学校 (大好き小)
- 梅園小学校 (防災教育と奉仕の心)
- 藤川小学校 (学習に生きるパソコン活用)
- 福岡中学校 (あじさいの里優しい街づくり)
- 六ツ美中学校 (異年齢交流で育む豊かな心)

◆第47回岡崎中学校総合体育大会の記録

●種目別競技

種目	性	優勝	2位	3位
陸上競技	男	六ツ美	北	矢作
	女	六ツ美	東海	矢作北
バスケットボール	男	附属	城北	矢作北
	女	東海	矢作北	竜海
バレーボール	男	矢作北	六ツ美	竜海
	女	矢作北	六ツ美	竜南
ソフトテニス	男	城北	竜海	岩津
	女	城北	常磐	美川
卓球	男	六ツ美	竜南	城北
	女	六ツ美	美川	岩津
体操	男	矢作北	南	東海
	女	南	東海	矢作北
剣道	男	南	東海	竜南
	女	矢作北	竜海	甲山
ハンドボール	男	葵	六ツ美	美川
	女	六ツ美	竜南	
軟式野球	男	竜南	葵	甲山
	女	南	城北	竜海
柔道	男	甲山	矢作	矢作北
	女	甲山	矢作	矢作北
サッカー	男	南	甲山	福岡

●陸上競技(個人・1位のみ) ★大会新記録☆大会タイ記録

性	種目	氏名	校名	記録
男	1年100m	榊原拓也	矢作	13"1
	100m	近藤健太	北	12"1
	200m	日下部智久	矢作北	24"2
	400m	柴田泰宏	北	56"6
	800m	坂野文昭	美川	2'06"4
	1年1500m	長谷翼	葵	4'48"3
	2年1500m	藤井延幸	東海	4'28"0
	3000m	清水紀仁	葵	9'27"1
	110mH	加藤龍典	岩津	17"3
	400mR	宮田・鈴木・山崎・斎藤	六ツ美	46"7
女子	低400mR	都留・鈴木・榊原・井澤	矢作	51"3
	走り幅跳び	宮田芳彰	六ツ美	6m25
	走り高跳び	橋本良	北	1m75
	砲丸投げ	小谷エイジ	六ツ美	12m88
	棒高跳び	戸田和文	東海	3m20
	1年100m	新美綾乃	東海	14"2
	100m	千代島紫那	新香山	13"1
	200m	宮崎あさみ	六ツ美	28"4
	800m	浦野美和	六ツ美	2'26"8
	1500m	竹本紗代	六ツ美	4'52"1
男子	100mH	酒井翠	六ツ美	16"6
	400mR	酒井・音部・岩田・浅井	甲山	54"2
	低400mR	新村・新美・岸・小芦	東海	56"3
	走り幅跳び	酒井美江	甲山	4m75
	走り高跳び	大山麻那	常磐	1m45
	砲丸投げ	柵木悠	美川	11m50



▲第47回岡崎中学校総合体育大会開会式 宣誓(代表 矢作中学校生徒)

●体操競技(個人・1位のみ)

性	種目	氏名	校名
女子	個人総合	上田詩織	南
	床運動	上田詩織	南
	平均台	芝田有美佳	矢作北
	跳び箱	上田詩織	南

●柔道(個人・1位のみ)

性	階級	氏名	校名
男子	軽量級	荻野裕	甲山
	軽中量級	酒井英樹	竜海
	中量級	大竹祐二	竜海
	重量級	鍋島賢治	六ツ美
女子	軽量級	鈴木祐実	甲山
	軽中量級	内藤麻奈	竜南
	中量級	鳥潟磨矢	矢作

・カ  
ツ  
ト  
根  
石  
小  
赤  
崎  
類  
子

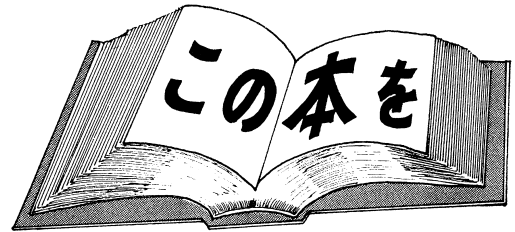


修学旅行団体専用列車「こまどり」号は、昭和三十五年四月二十日、初めて東海道本線を走った。  
東京までの所要時間は五時間ほどであった。この間、次々に変わる車窓の景色に、友達との会話もますます弾んだことであろう。窓を開ければ、その土地の空気が車内いっぱいになり、走り行くその香りを体感できたであろう。  
関東方面へ修学旅行に出かける中学生と見送る保護者の顔は、今も昔も変わらない。

## 「こまどり」号発車

(昭和35年)

写真提供：南中学校



\* あなたがいるから私がいま

ひびの けいじ

中部経済新聞社 ￥1143

\* 魂の自由人 曾野 綾子

光文社 ￥1500

\* 安政五年の大脱走 五十嵐貴久

幻冬舎 ￥1600

\* お母さんの親ごころお父さんの底ぢから

長田百合子

新潮社 ￥1300

\* 旅人燈 濱里 忠宜

南日本新聞社 ￥1429

人生には出会いがあり、別れがあるが、目に見えない大きなエネルギーの中で生かされている縁の不思議さを思う。

「わが旅路をふり返って、ふと気がつくと、いつまでも心の一角に残影となって動かない人がいる。いつまでも心の一角に潜んでいて消えない言葉がある」と、前書きにある。鹿児島県総合教育センター所長、鹿児島県教育長等の要職を歴任された著者の縁、遭逢の一片がここにある。

岡崎市全小中学校では、現在「特色ある学校づくり」に取り組んでいる。子供や地域の実態をもとにした各学校の「顔」が浮かんできている。  
各学校の「顔」が、岡崎市の子供たちの「笑顔」につながるよう取り組んでいかなくてはならない。  
シュート、アタック、ホームラン……。日に日に暑さが増す中、部活動の練習、指導にも力が入る。一点でも多く一秒でも速く一試合でも長く、この子らと時間を共にするために練習してきた。ざらざらと照りつける日差しの下、今年もまた暑く、そして暑い夏がやってくる。

# シオ スア

遊びは時代と共に変化する。最近、子供たちの間で、ビー玉遊びが復活した。とは言っても、昔と違って、室内で発射器に仕込んだビー玉をキャラクターに向けて打つものだ。空き地が減り、外で遊べない現代にあつては、遊びも変化せざるを得ないのである。  
墨のかすかな跡を頼りに算額を読む。古ぼけた一枚の木の板であるが、和算家たちの学問に対する熱い思いが伝わってくる。  
よいもの、価値あるものは時代を超えて残っていく。わたしたち岡崎の教師の実践もそうありたいと願う。